

# 北部



2. 北摂の風景（能勢町）

北部は淀川より北の地域で、面積の約 $\frac{2}{3}$ を北摂山系が占め、その南が千里丘陵で、大阪平野へとつながっています。あまり高い山はなく、一番高いのは最も北のほしにある深山、次いで剣尾山で、800m近くの標高があります。そのほか三草山、妙見山、竜王山、ポンポン山など、いずれも400m～700mくらいの高さの山がならんでいます。山々にはさまれて、宿野、余野、田能、原などの盆地があり、集落になっています。北摂山系の気候は、夏は涼しくて雨が多く、冬は寒くて雪が多いのが特徴で、生きものにも影響を与えています。

山林は、昔から炭焼きがさかんだつたので、炭の原料となるクヌギやコナラ、アベマキなどが多い雑木林ぞうきばやしとなっています。雑木林ぞうきばやしに特徴的な昆虫に、ゼフィルス（ミドリシジミ類）とよばれる美しいチョウのグループがあります。大阪では、アカシジミやヒロオビミドリシジミ、アイノミドリシジミなど15種が知られていますが、大部分が北摂山系ほくせつさんけいだけにすんでいます。



3. アイノミドリシジミ

他にギフチョウやオオムラサキ、オオクワガタなど雑木林ぞうきばやしに特有な昆虫が多く、イチリンソウやニリンソウなどのように、春に木の葉がまだ出ないうちに花を咲かせる植物も多くみられます。ところが、最近さいきんは炭焼きなどに雑木林ぞうきばやしを利用しなくなったため、林のようすが変わり、みることのできる生きものがだんだんと少なくなってきました。タガメやゲンゴロウ類など大型の水生昆虫、ハッチョウトンボやミズゴケ、モウセンゴケ類など湿地性の生きものが多くすんでいるのも、この地域の特徴です。

他の動物では、箕面みののニホンザルが有名で、ニホンジカやイノシシも多くすみ、オオサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、モリアオガエル、カジカガエルなどの両生類や、タカチホヘビ、シロマダラなど普段ふだんなかなか目にするのでできない珍しいめずらヘビもすんでいます。

溪流けいりゅうの魚では、アマゴ、アブラハヤ、アジメドジョウ、ナガレホトケドジョウ、アカザ、カワヨシノボリなどが特徴的です。

鳥類では、日本固有種こゆうしゆのアオゲラやカヤクグリもよくみられ、オオマシコ、イスカなどの珍しいめずら渡り鳥もよく訪れます。



4. カワヨシノボリ